

事務事業マネジメントシート (21年度実績と22年度計画)

22年度予算確定後 平成 22 年 3 月 26 日 作成  
21年度決算把握後 平成 22 年 月 日 作成

事務事業名		経済センサス基礎調査事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	総務企画部	課長名	濱田 善也	
	施策	24	行財政改革の推進			所属課	企画財政課	担当者名	中村 奈利	
	基本事業	84	広聴・広報機能の充実			所属班	政策企画班	(内線)	1242	
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	統計法	成果優先度評価結果	-
		1	2	5	2	11329			コスト削減優先度評価結果	-
終了、開始年度		<input checked="" type="checkbox"/> 21年度で終了 <input type="checkbox"/> 22年度から開始				事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( ~ 年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	事業所及び企業の活動の状態を明らかにし、我が国における包括的な産業構造を明らかにするとともに、事業所企業を対象とする各種統計調査の実施のための母集団情報を整備することを目的として実施される事業。 事業所・企業統計調査、商業統計調査、工業統計調査など、従来の事業関連の基幹統計を一本化し、平成21年度に母集団情報の整備として基礎調査、平成23年度に事業所の活動調査が予定されている。 平成21年度から初めて実施される。
【業務の流れ】	指導員・調査員の設置(4月)・広報活動(6月広報誌、HP掲載)・調査員事務説明会の開催(6月)・調査実施期間中の活動補助(6月～7月)・調査書類提出後の整理、審査(7月～8月)・県審査会(8月)
【主な予算費目】	報酬・職員手当・需用費・役務費・使用料及び賃借料
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	特になし

1 現状把握の部(DO, PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 手段(主な活動) 21年度実績(21年度に行った主な活動)(DO)	22年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
指導員・調査員の設置・広報活動・調査員事務説明会の開催・調査実施期間中の活動補助・調査書類の整理、審査・県審査会	なし
④ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位)	⑤ 対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位)
→ ア 調査員活動日数 日	→ ア 合志市内の事業所数 事業所
→ イ 職員活動日数 日	→ イ 事業所数 事業所
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	⑥ 成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位)
経済センサス基礎調査	→ ア 正確に調査が実施されなかった事業所数 事業所
→ イ 事業所数 事業所	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	
正確に実施される	
*⑥成果指標設定の理由と平成22年度目標値設定の根拠 活動状況が把握できなかった事業所数を成果指標としたが、調査環境の悪化によるものである。	

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	19年度実績(決算)	20年度実績(決算)	21年度目標(当初予算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	23年度予定	24年度見込
④ 活動指標	ア 日				15	20			
	イ 日				30	50			
⑤ 対象指標	ア 事業所				1300	1420			
	イ 事業所								
⑥ 成果指標	ア 事業所				10	41			
	イ 事業所								
投資入量	事業内訳	国庫支出金	千円						
		都道府県支出金	千円			1,150	1,033		
		地方債	千円						
		その他	千円						
		繰入金	千円						
	一般財源	千円				5			
	(A) 事業費計	千円	0	0	1,155	1,033	0	0	0
(A)のうち指定経費	千円			1,150	1,033				
(A)のうち時間外、特勤	千円								
人件費	正規職員従事人数	人			1	1			
	延べ業務時間	時間			240	400			
	(B)人件費計	千円	0	0	955	1,592	0	0	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	0	2,110	2,625	0	0	0

総トータルコスト	全体計画
～ 年度	
(期間限定複数年度のみ記載)	
	0
	0
	0
	0

事務事業名	経済センサス基礎調査事業	所属部	総務企画部	所属課	企画財政課
-------	--------------	-----	-------	-----	-------

## 2 評価の部 (SEE)

\*原則は21年度の事後評価、ただし複数年度事業は21年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①21年度目標達成度評価 事務事業の前年度実績は前年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input type="checkbox"/> 達成した	<input checked="" type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】 ↷
		調査環境の悪化から、調査に非協力的な対象が増えているため。	
有効性評価	②22年度目標達成見込み 事務事業の本年度目標値に対して本年度の見込みはついているか？	<input type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】 ↷
		22年度はなし。	
効率性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 ↷
		事業完了のため。次は23年度に活動調査が予定されている。	
公平性評価	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ↷ (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 ↷
		統計法に基づく基幹統計であるため。	
役割分担評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 ↷
		県からの交付金の範囲内で事業を行っているため。	
公平性評価	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 ↷
		最小限の人数で、可能な限り効率的な業務を行っている。	
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 ↷
		統計法に基づく基幹統計であり、公平である。	
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事務事業のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行出来ないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 ↷
		役割分担は適さない。	

## 3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

事業所・企業統計調査、商業統計調査、工業統計調査など、従来の事業関連の基幹統計を一本化することで進められているが、実施時期など問題があり、国において方向性が定まっていないことが問題である。  
次は、平成23年度に事業所の活動調査が予定されている。

## 4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- 廃止     休止     目的再設定     事業統廃合・連携     事業のやり方改善(有効性改善)  
 事業のやり方改善(効率性改善)     事業のやり方改善(公平性改善)  
 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

21年度に基礎調査が完了。  
次は23年度に活動調査が予定されている。

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			
	低下			

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策